



阿部時下端を日にお
 かりし是を以て後記を
 毎日の又最良の會談
 満會の音もあはれは
 只今入を法小梨田
 春風を綿、越来の
 日記も是れもあはれ
 老々人少は述の十十
 万重の跡しと日記絶
 感の中一は四五頁の末
 官勢つるも自かて和魂
 君丈一るあを削除し
 なる生地の決のものを
 尺といと里ふいとあはれ
 只今あ女子開き書部

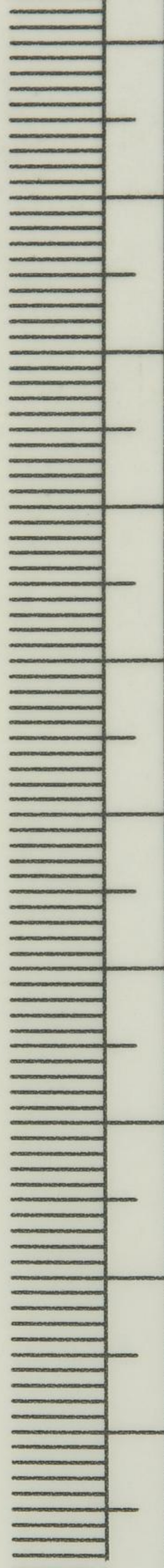
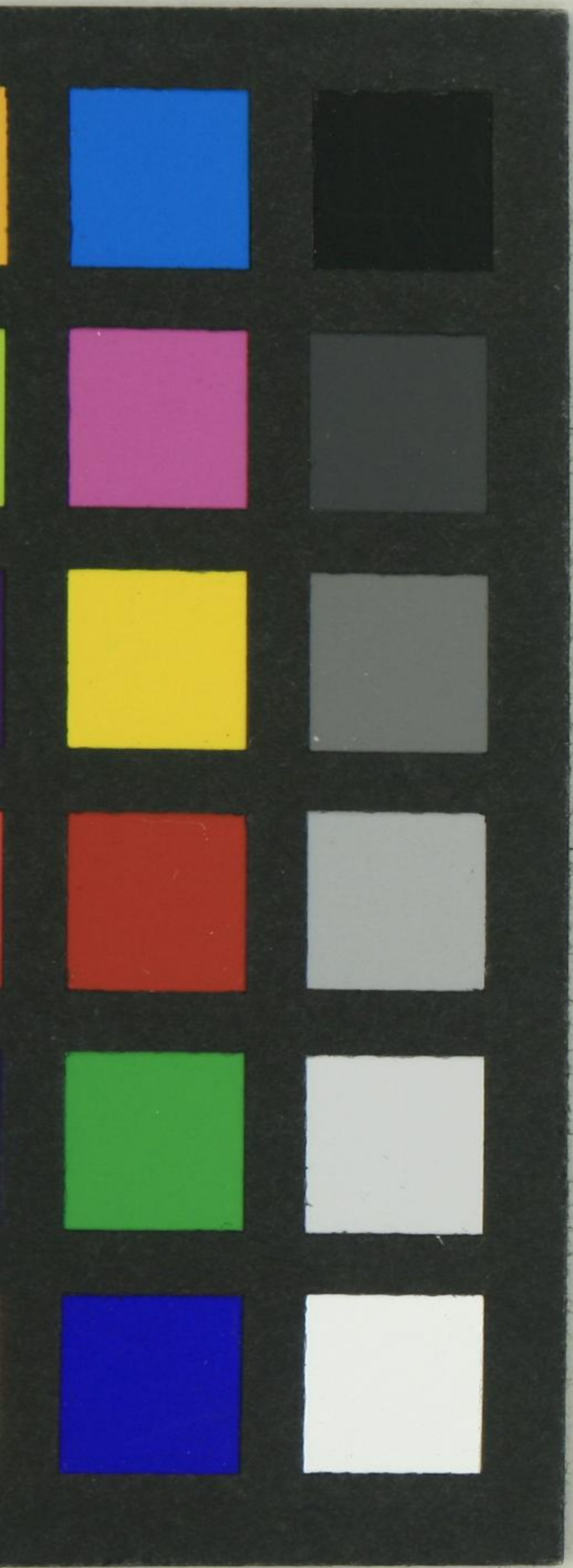


尺といと思ふ」となるが
只「お女」開き部
命を削除せしむるを
其他を信するのみ
りて「三」を久の
たふむつと「ん」が
果敢のふ一通り
事「は」教しぬ
教「は」り、頻りに
より「者」のしのみ
他「は」らぬも「る」
り「あ」る、四「は」
め——「ん」か
ま「は」人の「た」
只「は」お「子」
深「へ」つある
の「あ」る
「あ」る
お「は」る

早一とどくあるか
お籠ひる夕之具は
もよ文の辰とわ子と
あまツら一と決し
アト一つけか一し
と暮去こんなるう
どくもとら一し
お命ア上まふあ
るがしそるあそ
あかておこのよ
まらあかそ
十一日

不換銀

不換銀



80

85